

VIII 施設・設備等

1. 施設・設備等の整備

快適かつ安全に教育研究が行なわれるための施設・設備の整備は重要な課題である。緑化計画等、定型的な整備計画は、キャンパス整備委員会で決定された事項を、事務局管理課が具体化している。大規模な整備計画については、学長が理事長および理事会と協議しながらプランを作り、それを教授会等に諮り学内合意を得た上で、実施している。ただし、安全上、緊急に実施される必要がある事項については、この限りでない。

数年前までは、修理が必要な事態が発生してから対応するという体制であったが、安全面からも財政面からもリスクが多いので、正確なデータに基づいた、予算的にも無理のない、創立110年(2010年)までを想定した計画的な整備計画案が現在検討されている。今後は、この計画に基づいてアメニティの向上が図られる予定である。

(1)校地・校舎面積について

現 状

現況の校地総面積は、学外施設である東中野・川崎住宅、榛名・西国分寺セミナーハウス等の土地を除いた小平校地総計で91,486㎡となっている。これは学生1人当たりに換算すると33.4㎡ということになる。また、小平校地の校舎面積は30,036㎡であり、学生1人当たりの換算面積は11.0㎡となる。これらの現況面積は設置基準を満たしたものとなっている。それぞれの建物配置は図表VIII-1(123ページ)のとおりである。

(2)教室及び教室設備について

現状と評価

部屋数については、講義室39室、演習室30室、計69室5,480㎡となっている。講義室の平均面積は101.8㎡/室、演習室の平均面積は48.0㎡/室となっている。なお、学生1人当たりの面積は講義室1.45㎡、演習室0.53㎡となる。

什器類については、現在、計画的な設備更新に基づき、順次新しいものに変えているところである。視聴覚関係設備の充実については、ほぼ全教室にAV機器(移動式・固定)の設置がすでに済んでいる。

照明器具については、教室の標準照度は200～500ルクスとなっているが、管理課の本館調査(晴天時)結果では、部屋の隅で一部基準値を下回る箇所があったが、おおむね基準をクリアしている。

問題点と改善の方策

教室の照度について、キーボード作業を必要とする教室の標準照度は1,000ルクスとなっているが、該当教室の多くがその基準に達していない。また、窓際の席についてはグレア(ディスプレイの高い輝度に対して窓からの採光が反射して起こる見えにくさや不快感)防止の対策がとられていない。これらの環

境改善を行なう必要がある。

全教室数69の 1/3 にあたる23室が入っている本館は築70年が経過し、スチール窓の老朽化が目立つため、安全性、美観、冷暖房効果の点からも改修が急務である。また、スチール窓同様、屋根瓦も老朽化が進んでおり、特に安全性の点から改修が必要である。いずれの改修にしても、2003年度以降早い時期の実施を目指すべきだと思われる。

今後の教室整備については、高度機能化・高度情報化への対応や、ゆとりある室内環境の全面的な構築がポイントとなろう。

(3) 研究室について

現状と評価

1996年度の施設設備整備計画に基づき、別館増築により英文学科・国際関係学科研究室が完成した。これにより、各研究室においてセミナーもできる余裕ある面積(20㎡弱平均)が確保され、空調設備も換気装置が備わった。さらに、什器類が更新されたため最適な環境が確保されたことになる。情報数理科学科も、1997年度末に新館2・3階の研究室等の改修を終え移転した。面積も24㎡に拡充され、情報基盤の強化が図られている。

(4) 事務室について

現状と評価

新館ピロティにセンターオフィスが1995年に完成し、元教室であった本館の部屋を事務室として利用してきた5部署(教務課、学生生活課、総務課、経理課、管理課)が集約された。事務用設備・備品も一新され、オフィス環境は一般レベルに達し、ランニングコスト等の効率が向上したとの評価が高い。

(5) 屋外施設について

現状と評価

屋外体育施設は、多目的施設としてのグラウンドがある。フィールドホッケーやバレーボールのコートがあるが、公式規格のものではなく、必要最小限の器具を用いて使用されている。3面あるテニスコートについては、本学における唯一本格的体育施設といえるものであり、照明設備も完備されている。仕様はクレーコートで、維持管理経費がかかることが問題となっていたが、この負担を軽減するため、2002年に改修工事を実施した。この工事はコート劣化の原因になっていた水はけの悪さを改善する目的で行ない、雨水排水設備の容量不足を解消した。また、同時に老朽化したフェンスを新しいものと交換した。

構内舗装道路については、舗装工事を1990年から進めてきたが、主要部分はほぼ完成に至っている。通路附属設備である学内建物案内サインは、不足・不備の状況であったが、2002年度中に整備する予定になっている。

問題点と改善への方策

構内舗装はほぼ完成に至っていると前述したが、今後は降雨時における建物間の移動に対する付加機能としての屋根付道路の整備が課題となるであろう。

照明設備(外灯)についても、まだ十分な整備状況だとはいえず、今後器具のゾーニングや意匠を考慮しながら増設していく必要がある。

駐輪場は利用率が高まっており、非常に手狭になっている。放置自転車が増えていることが大きな要因となっており、改善策については、単に拡充を検討するだけではなく、自転車登録制度の導入等を含めた複合的な対応を考える必要がある。

その他の細かい問題点を挙げるとすれば、掲示板や自動販売機等の設置位置の見直しも、施設設備計画の対象となるであろう。

(6) 電気・水道等施設について

現状と評価

受変電設備は、電力需要増大に併せて、これまで設備増強を繰り返してきている。2002年夏の5号館空調入替工事でガス式から電気式に変更したことにより、契約電力量を70KVA 増強し、現在820KVA になっている。能力的には、1,200KVA を備えているが、基本料金を考慮すると、ピークを抑えていくことが望ましい。建物面積や設備拡大による電気消費量増加についてはやむを得ないこととはいえ、節電や高効率化の方策も一方で着手すべきである。今回の5号館空調設備については、節電の具体的対策として制御システムを導入し、効率的な運用を目指している。安全性については、建物変電所も含めて改修工事の機会に併せて改善を進めてきている。構内埋設配管配電線関係も、可能なものについては共同溝利用への切替を適宜実施している。屋内配線は、古い建物の盤は、ほぼELB(漏電遮断器)への切替を終えている。また、学内LANについては、共同溝光ケーブル網と主要建物内配線が施工され、システムが完成している。

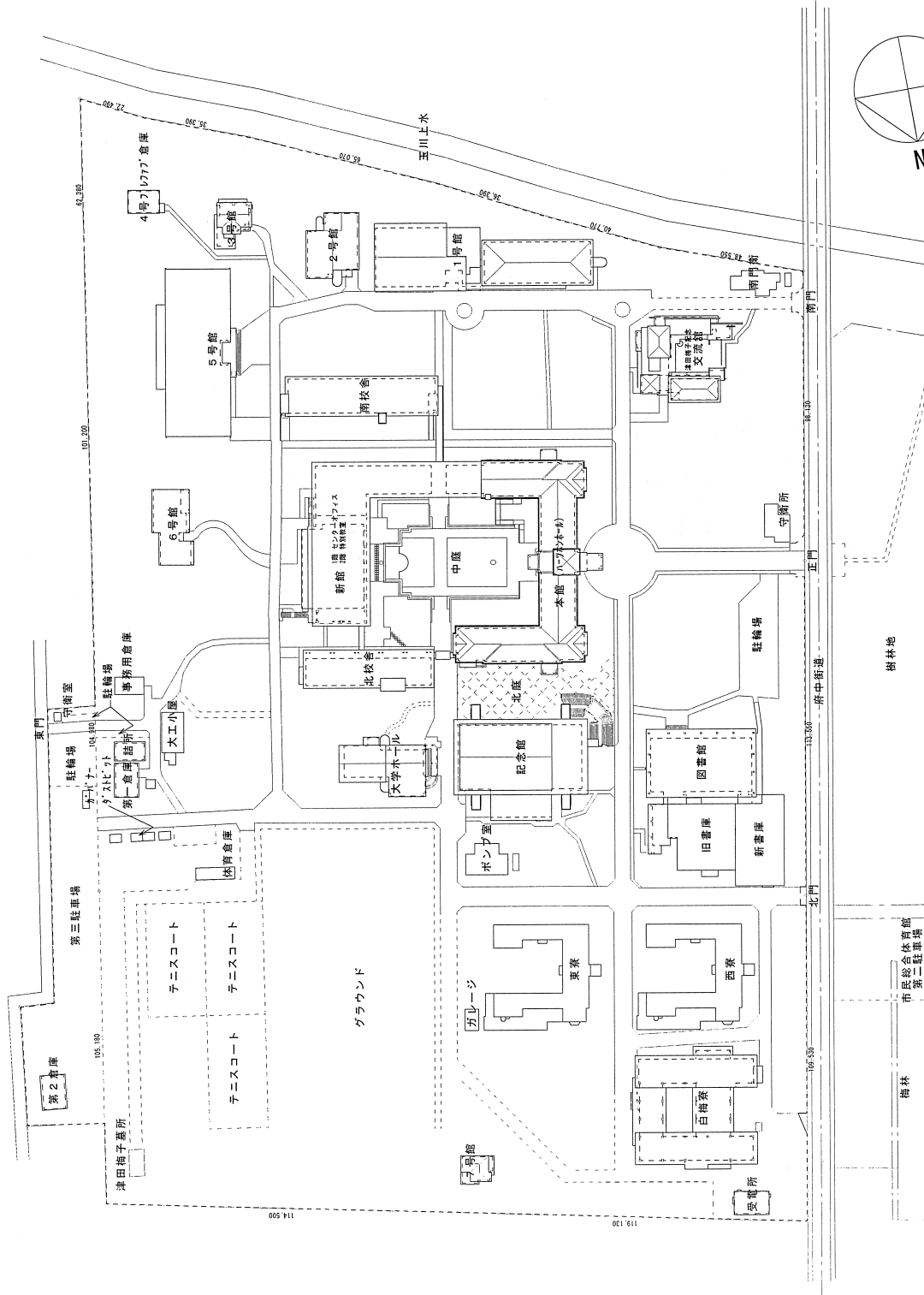
給排水配管設備は、漏水対策や系統整備を計画的に実施してきている。井水利用のトイレや消火栓系は無塩素であることから、管内腐食が少なく済んでいる点は特筆できる。なお、節水対策として、2001年度末に女性トイレの個別ブースすべてに流水擬音装置を設置したが、2002年度前期終了時点で、井水の使用量が前年比約30%減という成果となって現れている。

問題点と改善の方策

受変電設備の安全性については、前述のとおり、基本的に確保されているが、さらに遮断機や避雷器等の保護装置の向上を順次目指していく必要がある。

給排水配管設備の問題点は、市水受水槽が更新時期を迎えていることと、給水加圧ポンプ類に耐用年数超過のものがあることが挙げられる。いずれにしても整備計画の早期立案が必要な状況となっており、順次更新を進めていかなければならない。

図表VIII-1 建物配置図



図表Ⅷ-2 学科等の施設・設備の状況(2002年10月現在)

土地	取得年度		面積㎡	備考	
	取得年度	面積㎡		取得年度	面積㎡
小平校地	1922	83,396		屋外運動場敷地	14,193㎡
小平校地	1939	66		梅林	
小平校地	1940	1,466		梅林	
小平校地	1949	3,955		西雑木林	
小平校地	1979	2,603		東側校地	
鎌名校地	1987	454			
鎌名校地	1988	594			
西国分寺校地	2001	186			
合計		92,720			

建物	取得年度	構造	延床面積㎡	教研面積㎡	教室等面積㎡	研究室面積㎡	図書館面積㎡	体育施設面積㎡	エレベーター有無	換気装置有無	用途	改善点(直近1年)	課題点
本館	1931	RC4階 地下1階	4,210	3,759	1,599	0	0	0	有	無	校長室 秘書室 学長補佐室 会議室 企画広報課 入試室 百周年事務室		窓サッシの老朽化 屋根の老朽化
新館	1960	RC3階	3,383	3,030	429	33	100	0	無	有	情報研究室 数計研究所 理学院生室 情報事務室 会議室 教職準備室 日本語養成課程資料室 特別室 センターオフィス	耐震改修 屋上防水改修	
南校舎	1968	RC3階	1,727	1,727	859	0	0	0	無	無	教室 WS教室 システム・サービス事務室	屋上防水改修	
北校舎	1972	RC3階	1,516	1,516	569	0	0	0	無	無	教室 文学院生室 国際院生室 就職資料室 印刷室 国際センター	屋上防水改修	
1号館	1978	RC3階	3,230	3,230	385	1,234	0	0	有	有	英文研究室 国際研究室 英・国 事務室 言語文化研究所 教室 会議室	1112視覚機器設置 耐震改修 1Fトイレ改修	
2号館	1978	RC3階	937	937	28	77	179	0	無	無	保健体育研究室 ウェルネスセンター 医務室 事務室 国際関係研究室		1階の再開発 AV・空調設備
5号館	1989	RC3階	3,359	3,359	1,414	35	0	0	有	有	AV教室 LL教室 AVライブラリー スタジオ教材作成室 スタジオメ ディア・サービス事務室	空調設備更新	
記念館	1970	RC3階	3,437	3,054	0	0	0	1,149	有	無	体育館 トレーニング室 団体講師 室 学生食堂 学生部室 生協売店	トレーニング室・シャワー室等改 修	
図書館	1954	RC2階 地下1階	1,202	1,202	0	0	1,202	0	無	有	閲覧室 会議室 事務室		
書庫	1980	RC3階	4,563	4,563	0	0	4,563	0	有	有	閲覧室		
交流館	1964	RC1階	550	550	155	0	0	0	無	無	交流館事務室		
大学ホール	1980	RC3階 地下1階	1,154	1,131					無	無	学生ホール 喫茶 部室 音楽練 習室		
6号館	1991	RC1階	240	240	42				無	有	研修室 課外活動 研修室 保育所		
7号館	1999	木造2階	134	226	40				無	有			
藍井沼ゼミナールハウス	2000	木造2階	226	226	40				無	有			
西国分寺ゼミナールハウス	2001	木造2階	183	183	40				無	有			
鎌名ゼミナールハウス	1987	木造1階	120	120	42				無	有			
体育倉庫	1986	木造1階	64	64					無	有			
第1倉庫	2001	鉄骨造1階	97	97					無	有			
船木所	1931	RC1階	116	116					無	有			
受電所	1999	RC1階	81	81					無	有			
守衛所	1983	RC1階	72	72					無	有			
合計			30,565	29,355	5,602	1,735	329	5,865	1,149				

図表Ⅷ-3 学科等の施設・設備の維持・管理状況(2002年10月現在)

設備区分	種別	外部	自主	設置箇所
電気設備	受電設備	1回/1年	1回/月	受電所
	変電設備	1回/1年	1回/月	本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 5号館 記念館 書庫 大学ホール
	低圧回路	1回/1年		本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 2号館 5号館 記念館 図書館 書庫 交流館 大学ホール 6号館
給排水設備	非常用発電機	1回/1年	1回/月	書庫
	送水設備	1回/1年	1回/月	給水所 5号館
	受水槽	1回/1年	1回/月	給水所
	井水沈砂槽	1回/2年		給水所
	市水水質	1回/1年	1回/月	
	井水水質	1回/1年		
	GHP機器	1回/2年		本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 2号館 記念館 図書館 書庫 交流館 大学ホール
空調設備	フィルター清掃	1回/1年		
	ガス配管	1回/4年		
	非常用設備	2回/1年		本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 2号館 5号館 記念館 図書館 書庫 交流館 大学ホール 守衛所
	火災報知設備	2回/1年	1回/月	本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 5号館 記念館 図書館 書庫 大学ホール 屋外
	消火栓設備	2回/1年		本館 新館 5号館 記念館 守衛所
	放送設備	2回/1年	1回/月	本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 2号館 5号館 記念館 図書館 書庫 大学ホール 6号館
	誘導灯設備	2回/1年		1号館 2号館 5号館 図書館 書庫
	防火扉・シャッター	2回/1年		1号館 5号館 新書庫
	排煙設備	2回/1年		本館 新館 南校舎 北校舎 1号館 2号館 5号館 記念館 図書館 書庫 交流館 大学ホール 6号館
	消火器	2回/1年	1回/月	本館 新館 南校舎 北校舎 大学ホール
	非難器具	2回/1年	1回/月	本館 新館 北校舎 大学ホール
昇降機設備	エレベーター	1回/月		本館 1号館 5号館 記念館 新書庫
	ダムヴェーター	1回/月		書庫
共同溝			1回/月	

2. 視聴覚教育設備、情報関連設備、ネットワーク等の情報インフラの整備

A. 視聴覚教育設備(視聴覚センター)

現状と評価

視聴覚センターには、LL/CALL 教室を含む教室と AV ライブラリーがあり、外国語教育はもちろん、視聴覚教材を駆使した教育を側面から支援する施設としての役割を担い続けている。特に授業展開や学習効果を考えて「学生の能力とニーズに合わせた」自主教材制作は1960年の LL システム導入以来、教員の指導のもとに、教員、スタッフ共同で行なわれ、そのノウハウと、それを支援する体制は本学のみならず、他機関からも注目されている。

その他の施設として、録画・録音、編集、ダビング等の設備を備え、スタッフが常駐し、視聴覚センターの中枢となる教材制作室がある。教材制作室は、各教室や AV ライブラリー、ラウンジなどにセンター送りで、BBC、CNN等のニュースや教材を流すことができ、5101・5102 教室や特別教室から送られてくる映像を録画・録音することができる。また、防音設備の整ったスタジオや、タイラー、編集機、モニターテレビ、MD/CD ラジカセを備えた2つの編集室があり、英語によるプレゼンテーションや日本語教授法における留学生向けビデオの作成等の授業で、学生に多く利用されている。

1998年度に、LL システムの更新および CALL システムの新設以降、英語・その他の外国語教育の新しい教材開発と教授法の研究およびその実践を続けている。

視聴覚センター各教室の AV 機器設置状況は、以下のとおりである。

図表VIII-4 視聴覚センター機器一覧

教室	VTR	DVD	LD/CD	CTR	MD	OHC	M-TV	VP	PC	LAN	備考
5101	1	1	1	1	1	1		1		○	PC は持ち込み、同時通訳ブース
5102	1	1	1	1	1	1		1		○	PC は持ち込み
5201	1	1	1	1	1	1		1	1(Mac)	○	LL48ブース
5202	1	1	1	1	1	1		1	1(Mac)	○	LL48ブース
5205	1	1	1	1	1	1			1(Mac)	○	LL46ブース+同時通訳2ブース
5206	1	1	1	1	1	1		1		○	
5207	1		1	1	1		1				
5210	1		CDのみ		1		1				
5301	1		1	1		1	2				
5302	1	1	1	1	1	1		1	41(Mac)	○	CALL40ブース
5307	1		1	1		1	2				
5308	1		1	1		1	1				
5310	1		1	1		1	1				
合計	13	7	12	12	9	11	8	6			

*LAN が接続されている教室では、持ち込みのPC にも対応可。

AVライブラリーは、約60言語の語学資料をはじめ、詩・文学の朗読、講演、ニュース、映画、各種ドキュメンタリー、数学、保健体育などあらゆる分野にわたる視聴覚教材—オーディオテープ、ビデオテープ、CD、LD、DVD など—を収集し、利用者に自学自習の場を提供している。また、各ブースではCNN、BBC 放送を常時受信しており、いつでも視聴することができる。2002年度中には、ディスカバリーチャンネルも受信する予定である。

1996年10月より図書館のシステムと同調することになり、AVライブラリーの資料も図書館資料同様、Web検索が可能となる等、より効果的な運営が可能となっている。

AVライブラリーのLL 機器設置状況は、以下のとおりである。

図表Ⅷ-5 視聴覚ライブラリー機器一覧

ライブラリー	VTR	DVD	LD/CD	CTR	M-TV	Record	PC	備考
グループブース	A	1	1	1	1	1		DATあり
	B	1		1	1		1	
ペアブース	C~H	6	2		6	6		
AV 学習ブース	I 1-7			7	14	7		LLカセットと速度調整のきくカセットあり
	I 8-10			3	3	3		LLカセットあり(同時通訳用)
	I 11-15	5			5	5		LLカセットあり
個人ブース	J 1-6			6		6		
	K 1-6	6				6		Caption 常設
	L 1-6	6	1		6	6		
	M 1-6	6			6	6		
	N 1-6		6	6		6		
合計	31	10	24	42	53	1	1	

*MD は、ポータブルで対応。

問題点

- 1) PC を利用する授業や講演が増えているが、要望に対応できない教室がある。
- 2) DVD、MD の利用が増えることが考えられるが、要望に対応できない教室がある。

改善の方策

- 1) 今後の授業の対応について、教務課および計算センターと調整しながら、LAN、PC の増設も含めて検討し、現状では、教室の割り振りの工夫、PC のバージョンアップ等を行なって、授業に支障のないようにする。
- 2) 今後、3階部分の教室のAV 機器更新とMD、DVD の配置等を検討する。また、新しいメディアにもいち早く対応できるように、将来を見据え、計画的に機器更新を考えなければならない。

B. 情報関連設備(計算センター)

現状

情報教育および、情報を活用した教育を行なうための設備は2002年4月現在、次のとおりである。

- ・S205 ワークステーション教室 SunUltra5 60 台
- ・S206 ワークステーション教室 SunUltra5 40 台
- ・S303 ワークステーション教室 Windows98PC 40 台
- ・S304 ワークステーション教室 SunUltra5 60 台
- ・S305 ワークステーション教室 SunUltra5 40 台
- ・新館3階 端末室 SunRay 端末 10 台
- ・教材準備・研究用分散配置端末 SunRay 端末等 30 台

これら施設と設備は、学部・大学院の授業に使用されるほかは学生の自習のために平常日8時50分から21時まで解放されている。

ひとりあたり約 50MB まで使用できるファイルサーバー装置を置き、学内のどの端末からも個人の学習環境を参照し、また機密維持ができるようになっている。

なお、新入学者に対しては、新学期に集中して講習を行なうとともにインターネットアカウントを与え、学習にすぐ活用できるようにしている。

教材類は、学内に専用のウェブサーバーを置き、授業時も自習時も自由に参照できるようになっている。授業時の教材提示は、プロジェクタによる投影か、2人に1台あて設置された表示装置によっておこなうことができる。

問題点

現在の端末機は高性能エンジニアリングワークステーションと呼ばれる型式のものであるが、学生が家庭で使用する普及型のもとの操作方法が異なっている。

ネットワークの安全管理上、学外からの情報アクセスや学外への情報提供について標準では許可していないので、学生が予習復習をしたり、教員が教材準備をするのに制約が発生している。

改善の方策

機器は2003年4月に最新の普及型式のもとの交換する。その場合、個人向けに製造された製品を大学の教育環境で使用するための安全保持や共用環境の維持のための先進的な工夫を施す予定である。

学習および教育で活用する情報はその情報源も情報媒体も多様になってきているので、それらをストレスなく容易に使いこなせるよう、高性能機器とアプリケーションソフトの提供、さらにそれらを活用できるようにするための講習などの支援体制の整備を行なう予定である。

C. ネットワークインフラの整備

外部インターネットへは、2002年3月より、IIJ 社のATM3Mビット/秒高品位接続を利用している。

学内LANは南校舎サーバー室に置いた Cisco5509 スイッチから 100BaseTX と FDDI ループを併用したバックボーンを構成し、南校舎情報教育教室、1号館研究棟、新館研究棟、北校舎大学院研究室、図書

館、5号館視聴覚棟、本館教室、2号館研究棟、記念交流館をカバーしている。

問題点

現在のネットワークは機械的な一律のアクセス制御しかできていないので、学外からの情報アクセスや学外への情報提供について制約されることが多い。

インターネット接続は大学全体で、3Mビット/秒であり、近年の大容量化する情報資源の交換のために十分とは言えない。

将来への展望

ネットワークスイッチを論理的に高レベルなアクセス制御のできるものに交換し、学生が家庭から適切な認証を経て学内と同じ環境でアクセスできるようにする必要がある。知の拠点として大学からさまざまな情報提供を行なうためには、その情報内容を保証するための認証機構も整備する必要がある。インターネット接続は、さらに高速化が必要であるし、利用目的別の使い分けもできるよう多重化することも必要である。

D. 図書館情報システム

現状

本学図書館は、1988年1月より洋書書誌、所蔵データのデータベース化を行なっていたが、1996年10月からオンライン・コンピュータシステムを導入し、その後、1999年4月にサーバー機器の強化をはかった。

資料検索端末は、図書館閲覧室、開架書庫内、グループ学習室のほか、視聴覚センターや各研究棟にも配備され、学生や教員が学内基幹LANおよびインターネットを経由して、学内外から自由にデータベースを検索できるよう整備している。

さらに、2000年4月には、新たに CD-ROM 検索性ネットワークパソコンと CD-ROM サーバーを設置し、利用者は新聞情報、雑誌記事情報の検索を自由に行なえるようになっている。

また、1996年10月のオンライン・コンピュータシステム導入と同時に、学術情報センター(2000年4月から国立情報学研究所)の共同分担目録および所在情報サービス(NACSIS-CAT, NACSIS-ILL 等)に参加し、資料整備、提供の迅速化を進めるとともに学外諸機関との情報交換を行なうことによって、学生や教員の要求に応じている。

図書館内に設置されている教育用情報機器および視聴覚用機器の概要は次のとおりである。

[教育用情報機器]

- ・ 図書館情報システム業務サーバー 1台、検索サーバー 1台、
閲覧サーバー 2台(内1台は視聴覚センターに設置)
- ・ 図書館業務用端末 20台(内4台は視聴覚センターに設置)
- ・ 所蔵資料検索端末 14台(内1台は視聴覚センターに設置)
- ・ 外部データベース/インターネット検索性パソコン端末 10台(利用者用 5台、業務用 5台)
- ・ CD-ROM 検索性パソコン端末 7台

[視聴覚用機器]

・ マイクロリーダー・プリンター 3台

[コピー機] 6台

問題点と改善の方策

本学図書館は、現在、国立情報学研究所の旧 CAT/ILL システムに接続しているが、2005年1月からの新 CAT/ILL 完全オープンシステム化と多言語目録システムに対応できるよう、新システムへの移行と、それに伴う教育研究用、業務用ネットワークパソコン端末、サーバー等の整備を急がなくてはならない。

また、情報基盤および外部データベースを活用し、他大学との連携を深め、教育研究への支援をより強化するために、外部データベース/インターネットに接続できるパソコンを増設することが必要である。さらに、各閲覧席からも学内外のネットワークに接続できるLAN設備の強化をはかることが必要である。

3. キャンパス・アメニティ等

大学のアメニティ向上については、理事会の意向を受け、管理課を中心に進められている。アメニティに対する関心も高くなっており、さまざまなニーズに応えるべく施策が実施されている。

(1) 自然環境整備について

現状と評価

キャンパスの緑に関しては、植木類に対して定期的な剪定を実施している。また住宅と隣接している境界沿いの防風林については、必要に応じて枝落とし作業を実施している。ただし、建物に接近している樹木の枝落とし作業をするまでには至っておらず、十分な対応ができていないと言いきれない。

庭園施設としては、中庭、5号館前および大学ホール脇が整備されているエリアである。中庭は1960年に造園され、1999年に改修を実施した。構内全体の緑については、都心の大学と比較すると大変多く、この恵まれた環境は特筆すべきことである。

問題点と改善の方策

キャンパスの緑についての問題点は、樹木環境整備計画ができあがっていないことが挙げられる。構内雑木林は放置状況であり、残したい樹木を保存したり、木々の適正な世代交替を促すための間伐等の処置がなされていない。具体的な改善策としては、台帳を兼ねた樹木植生マップを作成することにより、現状を把握し、問題点を拾い上げる作業を行なうことが必要だと考えられる。また、主要樹木について樹木名札をかけ、学内構成員の緑に対する関心を高めていくことも検討していきたい。個別樹木については、松の木とグラウンド周囲の桜並木が問題を抱えている。前者は環境汚染による影響か、枯死・衰弱が目立ってきている。体力回復の対策として、マツノザイセンチュウの薬剤注入、他の木々からの日照確保、栄養剤注入などの定期的手当が必要である。後者は推定樹齢70年を超え衰弱が目立つため、2002年より土壌改良等を行ない、樹勢回復を図っている。

庭園施設の問題点は、それぞれの植栽の種類、配置などが体系的に計算されていないということが挙げられる。今後はグリーンゾーンごとの個別環境整備および維持管理が重要であろう。

(2) 障害者対応設備整備について

現状と評価

障害者対応についての設備は、専用トイレ、スロープ、エレベーターなどがある。これらの設備の設置は、新築および改修工事の際には必ず行なうようにしている。現状はまだ完全な状態とは言えないが、2001年度末には、授業での使用頻度が最も高い本館にエレベーターとスロープを設置するなど、徐々に整備が進んできている。

問題点と改善の方策

2003年度入試において視覚障害者2名が受験した。受験が決まった段階で入学後の対応を含め事務局の関連部署が、事務局長と具体的な対策を練った結果、施設面および生活面での対応については、一定の対応が可能であるが、授業で扱うコンピュータ等の機器については、現行では不十分であることが判明した。

今後は、まだエレベーター設備のない南校舎・新館等の計画を含めて、障害者対応設備整備を主目的とした学内諸施設の改善策を検討していく必要がある。

(3) 空調設備整備について

現状と評価

空調(冷暖房設備)については、1994年度から1995年度にかけてガス焚スチーム暖房設備からGHP(ガスヒートポンプエアコン)の冷暖房設備に切替更新が実施された。このことにより、老朽化した蒸気配管のトラブルやボイラー運転時間の拘束から解放された。さらに冷房機能も追加され、アメニティ環境が格段に向上した。

問題点と改善点

GHPについては、導入時の想定より故障発生率が高く、今後機種入替を検討する際に慎重な判断が求められる。なお、5号館はGHP以外の方式を採用していたが、室温管理を個別にできない等問題点があったこと、建物を新築した時に設置したもの(GHP導入より4～5年早い)で機械の老朽化が進んでいたため、2002年に電気式のものに入れ替えた。

(4) 学内清掃体制について

現状

清掃体制については、業者委託を主力として実施している。構内の除草・清掃、ゴミ回収は、シルバー人材センター要員が行なっている。日常清掃以外にも、夏期・冬期等の休暇期間にスポット清掃を必要に応じ実施している。

評価および問題点と改善の方策

清掃の問題点は、日々変化している状況への十分な対応体制ができていないことが挙げられる。決まった範囲内の清掃体制はほぼできあがっているため、今後は緊急時の対応体制づくりを進めていく必要がある。また、ガラスをはじめ、照明器具、ブラインド、什器類など備品類に対する日常清掃が十分ではなく、今後強化していく必要があると思われる。さらに、リフォーム後の価値をいかに持続させていくかが重要である。一般商店の店舗等の戦略として、美観の維持が重要視されてきており、大学もその例外ではないと言えよう。ただし、最も効果があるのは「汚さない」ことであり、教職員・学生個人が日常的に意識して行動することが要求される。従って、学内の広報活動によりいっそう力を入れていく必要がある。

(5) 環境問題に関する取り組みについて

現状と評価

エネルギー資源の効率的な消費については、前述のとおり、いくつかの対応策をとっている。再度記すと以下のとおりとなる。

- ① 電気…5号館空調機の一括制御システム導入
- ② 水道…学内女性トイレの個別ブースすべてに流水擬音装置を設置

リサイクル活動としては、2001年から卒業生に不用自転車の寄付を呼びかけ、整備調整の上、新入生・留学生等に貸し出すようにした。その結果、2001年21台、2002年32台と活動の輪は確実に広がり始めており、借用申込も貸出数の3倍近く集まっている。

大学周辺の「環境」への配慮については、最も影響があると思われるのが騒音問題である。1996年に音楽系サークルのための練習室を大学ホール地下に設置し、問題解決に向けて大きく前進した。

問題点と改善の方策

エネルギー資源を効率的に消費していくためには、新たな対応策実施を含めて、現在行なっているものを発展継承させていくことが重要である。具体的には、5号館に導入した空調機の制御システムを全学的に導入することなどが考えられる。ただし、清掃の問題と同様に、最も効果があると思われるのは、照明・空調機等のスイッチをこまめに切ることであり、そのことに対する教職員・学生個人への協力が得られるよう、学内の広報活動によりいっそう力を入れていかなければならない。

大学周辺の「環境」への配慮については、授業時のチャイム音の問題が残されている。他大学では、チャイム音を従来より短いものにするなどして対応している例があり、本学においてもそれらに倣った対応策を検討すべきであろう。また、日常的ではないが、入試制度の拡大に伴い、改修工事等が夏期に集中する傾向が顕著になってきていることから、工事実施時の騒音対策にも気を配る必要が出てきている。

キャンパス・アメニティの向上は、教育研究および就労のために不可欠なものであると同時に環境問題にも直結する課題である。それだけに、管理課だけで対応しきれものではない。管理課を中心として、事務局全体で取り組むと同時に、学生、教員にも積極的な協力を求めていくべきであろう。授業科目にも「環境問題と国際関係」が開講されているなど、環境問題に対する関心は高い。こうした気風を大事にしながら、取り組むべきであろう。人的体制等の問題など、容易ではないが、ISO取得を目標とすることもアメニティ向上につながるであろう。

4. 維持・管理体制

(1) 防災・防犯セキュリティー設備について

現状と評価

防災面の中心となる消防設備関係は、法令等の定める安全基準に適合しており、問題点はない。また、改修工事の際にも必ず消防署の指導を受け、法的基準を遵守している。なお、基準以外での設備改善として、自主非常用放送設備の拡大や防災受信盤の統合などの早期実施検討を進めてきているが、2001年度末には3寮(東、西、白梅)の非常用放送設備設置が実現した。

防犯面では、従来正門のみであった警備員を2000年から東門にも配置(昼間のみ 7:00~19:00)するようにした。また、寮周囲の夜間監視体制も強化を図っている。

問題点と改善の方策

防災面の問題点は、古い建物が現行基準を満たしていない点である。法令上は現行基準の縛りを受けないとはいえ、自主的に安全性向上への積極的・継続的な検討を行ない、被害発生・拡大防止の具現化をしていくことが必要である。

防犯面の問題点は、境界フェンスが、構造的に外部からの侵入を防ぎづらい状況となっていることが挙げられる。守衛所の巡回警備にも限界があり、このような条件下では重要施設への侵入に対するセンサー・カメラ等の設置が検討されるべきであろう。

いずれにしても、近代施設では欠くことのできない統合的な防災・防犯センター機能の整備を進めていかなければならない。

(2) 耐震設備改修について

現状と評価

新館特別教室部分は、1995年度のセンターオフィス増築に伴い、耐震壁の新設・壁増打により安全対策が施されたが、それ以外に1980年以前の基準で建てられた建物は、現行基準以下の構造計算で建築されており、法令上の規制を受けないとはいえ、安全性の確保は急務であった。こうした状況を踏まえ、キャンパス内の耐震改修計画を2000年から検討し、2001年および2002年の2年間で、ほぼすべての建物の改修補強工事を完了した。

一連の耐震改修補強工事については、阪神淡路大震災級の大規模地震が発生しても、建物が倒壊及び崩壊する恐れのないレベル(壁等一部が破壊されることはあっても、建物そのものが倒れたり、上部階層全体が下部へ落下するようなことはない。)であるAランク(耐震判定値1.0以上)に耐力を向上させることを目標にした。各建物の耐震判定平均値の改善状況は以下のとおりである。

本館	0.764⇒0.982	図書館(丹下館)	0.209⇒1.002	記念館	0.363⇒1.015
新館	0.998⇒1.168	図書館(旧書庫)	0.715⇒0.965	白梅寮	0.612⇒1.225
南校舎	0.800⇒1.090	1号館(旧別館側)	0.848⇒1.200	大学ホール	0.935⇒1.080

なお、本工事の実施に当たっては、機能性はもとより建物のデザイン等についても十分な配慮をした。特に2001年2月に東京都選定歴史的建造物として選定された本館については、外観に影響が出ないよう内部構造壁の増強を中心に設計することを心がけた。

(3) 震災時対策(備蓄品等)について

現状と評価

震災時における対策として、2001年度より計画的な非常用備蓄品の購入を開始した。現在の備蓄品保持状況は以下のとおりである。

- ①災害時用簡易組立トイレ…10台
- ②アルミ製軽量車椅子…1台
- ③担架ベッド…3台
- ④サバイバルブランケット…500枚
- ⑤サバイバルフード等非常食…1,800食
- ⑥保存水…1.5リットル×96本

備蓄目標数については、本学教職員および学生の総数約3,000人の1/3に相当する1,000人が、ライフライン復帰の目安である3日間を凌げる量を確保することとしたい。なお、非常用の自家発電機設備についてはすでに保有しており、停電時にも消火栓ポンプを稼働させ、井水を汲み上げることができる。

問題点と改善の方策

大規模震災時の停電や断水(水道の復旧にはかなりの日数を要する)に対する最低限の設備はあるといえるが、それらの設備を長時間運転させることを想定した燃料の貯蔵がされていない。今後の整備計画に組み込んでいく必要がある。

(4) 施設に関する維持管理について

現状と評価

建物の防水・塗装のメンテナンス工事は、近年定期的を実施するようになり、雨漏りの発生件数は減少している。外壁防水塗装もアクリル系、ウレタン系の亀裂追随性のあるものを選択するようになり、耐久性は格段に高まっている。

問題点と改善の方策

鉄部の塗装のメンテナンスを十分に行なえていないことが問題である。鉄部については、もともと塗装の耐用年数が短いため、劣化する前に計画的に手を加えていくことが望ましい。しかし、現状は劣化状況の進んでいる箇所から改修することで手一杯であり、対応が後手にまわっている。腐食により部材が傷んでいる箇所も発生しているので、至急改修計画を立てる必要がある。

本館の玄関底部分の柱に亀裂劣化が見られる。構造的には問題ないと思われるが、柱表面の装飾部分(石質材)の劣化は相当進んでいる。本館は2001年に「東京都選定歴史的建造物」に指定されており、

匠を損なわないような修復が要求されるため、詳細な調査の上、慎重に作業を進めていかなければならない。

(5) 設備に関する維持管理について

現状と評価

法定点検については、専門業者に保守を委託しており、最低限の保守および必要な補修・改修は適宜実施している。

問題点と改善の方策

設備の維持管理を考える上で、実施が望ましい点検作業として、安全管理面では日常建物設備定期自主点検、財産管理面では固定資産現物点検が挙げられる。いずれの作業も人的事由等により十分な実施体制がとられていないが、今後は適宜実施していく必要がある。

建物設備図面、設備データ、鍵管理等のシステムも十分な整備ができておらず、個々人の経験や記憶に頼っている状況である。各種図面、データ等の管理状況も紙を媒体としたものが中心であり、分散保存されている。今後はこれらの情報を一元管理できるような体制づくり、具体的には本学に適合した管理ソフトを導入し、電子媒体による管理体制を構築することが強く望まれる。

事故・故障に対する危機管理体制も十分ではない。安全・正確そして緊急時の迅速な対応ができるシステムを構築しなければならない。

(6) 学内諸施設に関する計画的修繕管理について

現状と評価

学内諸施設、特に建物について、改修履歴等を一覧できる資料が整備されておらず、改修も不具合が発生してから計画されるという状況が続いていた。このままでは、大規模改修が一時期に集中することが懸念されるため、計画的な施設改修を実施できるように、2002年に建物ごとの改修履歴をまとめた資料を作成した。

問題点と改善の方策

前述のとおり、計画的な施設改修の実施は急務である。少なくとも今後10年程度の改修計画を立てる必要がある。これによって改修経費の平均化を図り、財務リスクの回避を実現する。また、不具合が発生する前にケアすることにより、建物寿命を縮めることなく維持管理していくことが可能となる。2003年度中に計画をまとめる予定である。

5. 大学院の施設・設備等

現状と評価

大学院については、独自の建物はなく、学部との共用が基本となっている。授業の中心となる少人数演習室の数は十分あり、現在のところ、大学院の教育研究活動を実施していく上で、施設・設備を学部と共用していることで問題となる点はほとんどない。

大学院専用の施設としては大学院生室がある。北校舎に文学研究科4室(80.0m²)、国際関係学研究科4室(75.0m²)があり、新館に理学研究科2室(54.0m²)がある。

問題点と改善の方策

大学院は今後拡充されていく可能性が強く、専用の施設・設備等が必要になってくるであろう。それに備えた施設の整備計画を立てなければならない。